

システム・ダイナミクス学会日本支部

2014年度 第1回会員総会

開催日：2014年7月12日(土)14:00
開催場所：専修大学神田校舎5号館5階、551教室
上記を報告会に変更、メーリングリストによる総会



議題

議長の選出

<報告事項>

報告1 2014-2015年度会長信任投票結果

<審議事項>

議案1 2013年度事業報告

議案2 2013年度決算報告・監査報告

議案3 APSDC2014決算報告・監査報告

議案4 2014年度事業計画

- (1) JSD 学会誌の発刊
- (2) JSD 研究会の開催
- (3) 研究分科会の設置
- (4) JSD カンファレンスの開催
- (5) 総会の開催
- (6) ホームページの更新
- (7) 研究活動の奨励制度

議案5 2014年度予算案

その他

1. 2014-2015 年度会長信任投票結果

(1) スケジュール

5月17日 選挙人・被選挙人名簿の確定（5月17日現在で会員資格を有する方）
5月17日～5月31日 次期会長候補の推薦
6月7日～6月14日 次期会長選挙

(2) 次期会長候補の推薦

JSD 次期会長候補として、内野 明 会員を推薦したい旨の申し出が、JSD 会員 6 人よりございました。立候補者は1名ですので、信任投票を実施。

(3) 次期会長候補の信任投票

有効投票数 30 票 信任 30 票／不信任 0 票の信任多数で内野明氏が次期会長として信任されました。

議案 1

1. 2013 年度事業報告 (2013 年 4 月 1 日～2014 年 3 月 31 日)

1. 1 編集委員会活動報告 : 編集委員長 小山茂 (理事)

1. 編集委員会の設置

編集委員会を昨年度に引き続き設置した。編集委員長、編集委員、編集委員会担当幹事は以下の通り。

- (1) 編集委員長
小山茂
- (2) 編集委員
有村幹治 (理事)、海老根敦子 (理事)

2. 学会誌 12 号

2013 年 8 月に発行。

1. 2 JSD 研究会の開催

- (1) 担当 : 内野明会長、福田敦 (理事)、高橋裕 (研究担当理事)
- (2) 開催場所 : 総会開催場所
- (3) 開催時期 : 2013 年 7 月 6 日 総会開催時

プログラム

- | | | |
|-------------|-------------------------------------|-------------------|
| 15:00-16:00 | 「日本における SD の導入期」 | 亀山三郎 (中央大学名誉教授) |
| | ショートトーク | |
| 16:00-16:20 | 「10 ステップの SD モデリング」 | 高橋 裕 (専修大学) |
| 16:20-16:40 | 「医療と介護の連携」 | 明神 知 (オービス総研) |
| 16:40-17:00 | 「講義『システム工学』での SD の利用ー交通流モデルの理解と作成ー」 | 石坂 哲宏・福田 敦 (日本大学) |
| 17:00-17:30 | 「経営者を説得した SD 事例」 | 蓮尾 克彦 |

1. 3 研究分科会の活動促進

研究分科会の設立を促すために、会員に向けて必要な広報を図った。分科会という枠組みではないものの、下記のような会員による SD セミナーが開催され、技術向上の機会が作られた。

*システム思考/システム・ダイナミクス入門セミナー・ワークショップ

日本未来研究センター 末武 透

- | | | | |
|--------------|-------------|-----------------|---------|
| 3 月 26 日 (水) | 15:00-19:00 | オービス総研東京本社、会議室 | (以下、同じ) |
| 4 月 22 日 (火) | 15:00-19:00 | 専修大学神田校舎 771 教室 | |
| 5 月 29 日 (木) | 15:00-19:00 | オービス総研東京本社、会議室 | |
| 6 月 30 日 (月) | 15:00-19:00 | オービス総研東京本社、会議室 | |

1. 4 カンファレンスの開催 担当 : 研究担当役員

APSDC (Asia-Pacific System Dynamics Conference) 2014

日時 : 2 月 22 日 (土) -24 日 (月)

場所 : 専修大学神田キャンパス

海外からは、英、米、チリ、トルコからの SD 学会の招待者に加え、アジア太平洋地域の主要国、さらにラトビア、ネパール、アラブ首長国連邦など 21 カ国から 25 の国籍を持った 50 人あまりが参加し、あわせて 100 名を超える規模の国際会議た。国内外からの多数の参加者及び発表があり、盛況のうちに終了した。

1. 5 System Dynamics Society などでの国際交流の促進

APSDC Conference 2014 を開催するなど、国際交流の促進を図った。

1. 6 会員管理・ML運営 担当：伊東理事

2014年6月時点で会員数は147人となっており、昨年度の142人と比較して5名の増加となった。

2013年度の会員管理として、引き続き、新会員の登録、退会者の削除、住所やメールアドレスの更新などの名簿管理と、メーリングリスト（以下ML）の追加・削除などの更新管理を行った。個人情報等が記載されている会員名簿のファイルは、パスワードをかけて厳重に管理し、事務局内で共有している。

新規入会に関しては、従来の手続きと同様に、はじめに理事会への入会承認の問い合わせを行い、1週間後に異論がなければ承認とし、その後、年会費の入金を依頼する手順とした。年会費の入金を確認出来次第、入会者のメールアドレスをメーリングリストに登録するとともにJSDの概要説明をメールで連絡し当該年度のJSD学会誌を郵送した。これに加え、例年と同様に年度末（1～3月の間）に入会した場合は、次年度の年会費は請求しない旨を新規入会者に連絡した。

年会費の支払いに関しては、会員から請求書や領収書の送付依頼があった場合には適宜、郵送を行った。年会費の入金確認は、2013年度よりゆうちょ銀行のWebサイトから確認を行っている。

現在、年会費の未払い会員が多数いる状況であるため、年会費の支払い請求を引き続き行う予定であるが、長期にわたり年会費の支払いに応じない会員に関しては規約に基づいて退会処理などを行っていく予定である。

1. 7 HP管理 担当：石坂哲宏理事

引き続き適切な情報発信を行った。

1. 8 研究活動の奨励制度

継続的に募集を行ったが、申請なし。

1. 9 国際的な研究活動に向けた検討・準備

APSDCを開催し、国際的な研究活動を促進した。

議案 2

2. 2013 年度収支決算報告・監査報告

2013年度JSD収支決算書
(2013年4月1日～2014年3月31日)

	2013年度予算額	2013年度決算額
収入の部		
前期繰越金	2,761,845	2,761,845
個人会費	500,000	290,000
2014年度会費相当額(APSDC参加会員)		150,000
賛助会費	50,000	50,000
出版物売上	30,000	6,000
雑収入	0	670
当期収入合計	580,000	496,670
収入の部合計	3,341,845	3,258,515
支出の部		
通信費	20,000	10,790
印刷費	50,000	0
学会誌印刷費	200,000	148,460
事務用品費	10,000	0
講師謝金	50,000	20,000
交通費	10,000	1,970
雑費	50,000	840
会議費	30,000	0
研究分科会補助金	200,000	0
アルバイト謝金	250,000	18,000
前年度未処理分	0	0
事務所賃貸料	0	0
APSDC2014	0	618,455
APSDC2014(招待者補助)	0	500,000
当期支払合計	870,000	1,318,515
次期繰繰り越し	2,471,845	1,940,000
(預金残高)		1,919,464
		(1,764,464)
	2014年度会費相当額	(150,000)
(現金残高)		20,536
(未払い金)		0
支出の部合計	3,341,845	3,258,515

2014年 3月 31日 理事(会計担当) 小早川 悟

2014年 3月 31日 理事(総務担当・事務局長) 福田 敦

上記の会計について監査の結果、適正であることを認めます。

2014年 6月 14日 監事 町田 欣弥

2014年 6月 14日 監事 渡部 淳一

議案 3

3. APSDC2014 収支決算報告・監査報告

APSDC2014収支決算書
(2014年2月22、23日)

収入の部	単価	人数	合計
参加費(Web事前支払 Paypal)	5,000	11	55,000
	10,000	20	200,000
	15,000	11	165,000
	20,000	22	440,000
参加費(ゆうちょ事前直接入金)	20,000	2	40,000
	10,000	2	20,000
バンケット当日追加23日申込 3名	10,000		30,000
22日当日受付&Outstanding	5,000	5	25,000
	10,000	5	50,000
	20,000	3	60,000
23日当日受付&Outstanding	10,000	3	30,000
収入の部合計		84	1,115,000
支出の部			
通信費			186,073
印刷費			58,258
雑費			152,372
交通費			13,644
会議費			856,540
会合費			54,688
消耗品費			24,640
アルバイト謝金			237,240
2014年度会費相当額	5,000	30	150,000
支出の部合計			1,733,455
カンファレンス収支			-618,455
招待者補助			
	50,000	10	-500,000
合 計			-1,118,455

2014年 3 月 31日 理事(会計担当) 小早川 悟 

2014年 3 月 31日 理事(総務担当・事務局長) 福田 敦 

上記の会計について監査の結果、適正であることを認めます。

2014年 6 月 14日 監事 町田 欣弥 

2014年 6 月 14日 監事 渡部 淳一 

議案 4

4. 2014 年度事業計画

(2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日)

4. 1 JSD 学会誌の発刊

- (1) 担当：編集委員長 小山茂（理事）、
編集委員 有村幹治（理事）、海老根敦子（理事）、編集担当幹事 規定に基づき適宜委任
- (2) Vol. 13 を 2015 年 3 月を目途に発行を行う。

4. 2 JSD 研究会の開催

- (1) JSD 研究会（特別講演）
 - ・ 講師：EMBERGE, Guenter 准教授
 - ・ ウィーン工科大学交通研究所 交通計画・交通工学センター
 - ・ 仮テーマ：MARS (Metropolitan Activity Relocation Simulator)による持続可能な都市政策の評価
 - ・ 日本環境共生学会及び日本大学大学院社会交通工学専攻交通研究センターと共催を検討中
 - ・ 9 月 19 日（土）、日本大学理工学部駿河台キャンパス 1 号館 121 会議室
- (2) JSD 研究会
 - ・ 開催時期・場所：2014 年 7 月 12 日（土）
 - 会場：専修大学神田校舎 5 号館 5 階、551 教室
 - プログラム
 - JSD 会員総会にかわる説明会
 - 「次の 40 年、50 年に向けて」 専修大学 内野 明
 - 「今後の JSD の活動について」 参加者による討議

4. 3 研究分科会の設置

- (1) 担当：全役員
- (2) 目標と活動方針

3 つ以上の研究分科会が活動を開始することを目指す。研究分科会の活動に参加する非会員が SD に関する実用的な価値を理解して、JSD に入会するきっかけとなることを期待する。そのために、初年度に限り JSD 会員以外も研究分科会のメンバーとして登録できることとする。JSD 会員以外の登録については、研究分科会の主査の管理下において実施する。

4. 4 JSD カンファレンスの開催

- (1) 担当：研究担当理事・事務局を中心にカンファレンス運営委員会を組織して実施する。
- (2) 開催場所：東京を予定しているが、可能であれば他の地域も模索する。
- (3) 開催時期：2014 年 11 月 22 日（土）
- (4) 申し込み：2014 年 8 月～2014 年 9 月（予定）詳細は後日 ML 等で告知します。
 - 送付宛先 : conference@j-s-d.jp
 - 内容 : アブストラクトの字数は、300～400 字。
カンファレンス 2012 運営委員会
 - 項目は、①題名、②発表者、③論文の目的と概要
 - なお、背景を冗長に記述しないようご注意ください。
- (5) 論文締め切り：10 月末
 - 論文の容量は、6～16 ページ。論文フォームは学会 HP に近日中に掲載します。

4. 5 総会の開催

- (1) 担当 : 事務局長 (総務担当理事)、事務局担当理事
- (2) 2014 年 7 月に JSD 研究会と合わせて開催する。

4. 6 ホームページの更新

必要なコンテンツ掲載など適宜、更新する。

4. 7 研究活動の奨励制度

学会員の研究活動をサポートするために研究奨励金を設ける。研究奨励金 (5 万円) は JSD 学会誌に論文が掲載され、System Dynamics Society へ論文掲載が認められた研究を対象に授与することとする。

議案 5

5. 2014 年度予算案

2014.6.

2014年度JSD予算(案)
(2014年4月1日～2015年3月31日)

収入の部

前期繰越金	1,940,000
個人会費	350,000
賛助会費	50,000
出版物売上	30,000
雑収入	0
当期収入合計	430,000
収入の部合計	2,370,000

支出の部

通信費	20,000
印刷費	50,000
学会誌印刷費	200,000
事務用品費	10,000
講師謝金	50,000
交通費	10,000
雑費	50,000
会議費	30,000
研究分科会補助金	200,000
アルバイト謝金	250,000
前年度未処理分	0
事務所賃貸料	0
当期支払合計	870,000
次期繰繰り越し	1,500,000
(預金残高)	
(現金残高)	
(未払い金)	
支出の部合計	2,370,000

【参考】

システム・ダイナミクス学会日本支部 規約

第1条 (名称)

本会はシステム・ダイナミクス学会日本支部と称する。

第2条 (目的および事業)

本会はシステム・ダイナミクス学会日本支部英文規約 (Constitution of the Japanese Chapter of the System Dynamics Society, 以下規約という) 第2条に掲げる目的を達成するために次の事業を行う。

なお、事業活動に必要な規則等は別に定める。

- (1) システム・ダイナミクスに関する研究会の開催
- (2) システム・ダイナミクスに関する図書、報告書、資料等の発行
- (3) システム・ダイナミクスに関する調査研究
- (4) システム・ダイナミクスに関係ある内外の学会、その他団体との連絡協議
- (5) その他規約に掲げる目的の達成に必要な事業

第3条 (会員構成)

- 1 本会は一般会員、学生会員、賛助会員および会友をもって構成する。
- 2 一般会員および学生会員は、本会の主旨に賛同し、第4条に定める手続きにより入会したものをいう。
- 3 賛助会員は本会の主旨に賛同する団体で、第4条に定める手続きにより入会したものをいう。
なお、賛助会員は1口につき最大5名が一般会員として登録できる。
- 4 会友は国際交流の促進を図る目的で、本会の会長がシステム・ダイナミクス学会 (The System Dynamics Society) の会員の中から入会を招請したものを言う。

第4条 (入会)

- 1 入会を希望するものは、所定の入会申込書によって本会の会長に申し出なければならない。
- 2 入会は理事会において承認し決定する。

第5条 (会費)

本会の会費は一般会員については年5,000円、学生会員については年2,000円、賛助会員については1口年50,000円とする。

第6条 (退会)

- 1 一般会員、学生会員および賛助会員は本会の会長に届け出て退会することができる。
- 2 会費の滞納が1ヶ年以上におよぶときは原則としてその資格を失う。

第7条 (役員)

本会に次の役員を置く。

会長 (President)	1名
副会長 (Vice-President)	3名以内
理事 (国際担当 : International Society Liaison)	1名
理事 (総務担当 : Executive Director)	1名
理事	10名以内
監事	2名

第8条 (役員を選任)

- 1 会長は総会に先立つ一般会員、学生会員および賛助会員による選挙によって選出する。
選挙細則は別途定める。
- 2 副会長、理事、監事は総会において一般会員および賛助会員の中から会友を除く出席者の過半数の賛成を得て選出する。

第9条 (理事会)

- 1 理事会は役員をもって構成し、毎年の総会時および会長がその必要を認めたととき、または役員の過半数以上の要請があるときに開催する。
- 2 理事会は、本会の活動を統括する。
- 3 理事会は、必要に応じて本会の活動にかかわる事項を審議し、実行するための各種委員会・分科会を設置することができる。
- 4 会長が必要と認めたとときは、幹事を置くことができる。
- 5 委員および幹事は、会長が委嘱する。
- 6 委員、幹事の任期は2年とし重任を妨げない。

第10条 (役員任期)

役員任期は2年とする。

第11条 (顧問)

会長は、理事会の議を経て、顧問を委嘱することができる。

第12条 (総会)

総会は年1回以上開催し、役員選任、事業計画、予算、決算、規約の変更、その他重要事項を承認する。

第13条 (定足数)

総会の定足数は会員の3分の1以上、理事会の定足数は役員2分の1以上とする。

第14条 (会計年度)

会計年度は毎年4月1日より、翌年3月31日にいたる期間とする。

第15条 (事務局)

- 1 本会の事務局を下記に置く。
〒274-8501 千葉県船橋市習志野台7-24-1
日本大学理工学部社会交通工学科交通システム研究室内
システム・ダイナミクス日本支部事務局
TEL : 047-469-5355
- 2 事務局は理事 (総務担当) と幹事で構成し、理事 (総務担当) が事務局長を務める。

- 付 則 1 第10条の規定にかかわらず、支部発足時の役員の任期は1991年12月31日までとする。
 2 本内規は1990年9月22日より発効する。
 3 1991年7月22日一部改正 4 1992年2月17日一部改正 5 1995年3月13日一部改正
 6 1996年3月29日一部改正 7 2003年2月12日一部改正 8 2004年1月31日一部改正
 9 2005年4月2日一部改正
 10 第14条の規定にかかわらず、2005年度会計年度は、2005年1月1日から2006年3月31日までとする。
 11 2010年4月24日一部改正：第15条（事務局）の改訂

システム・ダイナミクス学会日本支部 会長選出に関する細則

- 第1条 この細則は「システム・ダイナミクス学会日本支部規約」第8条に 定めた会長の選出に関する手続きを定めるものである。
- 第2条 会長の選出は次の各項による。
- 1 会長は一般会員と賛助会員に対して、文書またはそれに準じる方法によって次期会長候補の推薦を期末45日以前に、14日間の期間を設定して求める。
 - 2 5名以上の会員が推薦し、被推薦者が候補者となることを了承することにより、代表推薦人は会長に文書またはそれに準じる方法で、以下の内容を届出る。
 推薦人：氏名、住所、所属、e-mail、電話、（代表推薦人マーク）
 被推薦人：氏名、住所、所属、職位／資格、e-mail、電話、専門、略歴、
 JSD会長としての目標・抱負（400字以内）
 - 3 会長は規定の期間内に届出があった候補者に確認した上で、会長選挙を郵便により期末の14日以前に7日間の期間を設定して実施する。
 - 4 会長は会長選挙の結果を理事会で開封して集計し、第1位の候補に当選認定書を交付し、新役員候補の選定を促す。
 - 5 新年度の総会において会長は、新会長に権限を委譲する。

研究分科会の設立と運営に関する内規

1. 研究分科会が発足するまでのプロセス
 - ① 提案者：研究分科会の設立提案をサロン・メールで発信
 - ② 全会員：サロン・メールによる意見交換とメンバー募集
 - ③ 提案者：研究分科会の設立提案書を事務局までメールで送付
 - ④ 会長による承認
 - ⑤ 研究分科会活動開始
2. 諸規定
 - (1) 設立条件
5名以上の会員をメンバーとして、代表者が提案し、その目的がJSDの活動主旨に沿い、JSDの研究・普及活動を活性化させる可能性が認められるとき、会長は研究分科会の設立を承認する。
 - (2) 参加資格
研究分科会の活動に貢献するJSD会員は、いかなる研究分科会にも参加できる。
 - (3) 研究分科会の組織と運営
分科会には主査と幹事をおき、事務局が設定した分科会専用のMLの管理も自主的に行う。
 - (4) 研究分科会の権利と義務
 - ① 分科会メンバーの変更があった場合には、速やかに事務局に届け出る。
 - ② 研究報告を研究会で発表するよう担当理事に求められた場合には指示に従う。
 - ③ 少なくとも年1回以上はJSD研究会等で発表する。
 - ④ 会議場、コピー代など研究分科会開催に必要な経費は、領収書とともに事務局に申請すれば支払を受けることができる。ただし、各研究分科会の上限は別に定める。
3. 研究分科会の設立申請様式
メンバーリストを入力したExcelファイルと下記の申請内容を事務局メール宛に送付して申請する。
 事務局：jsd-office@yahoogroups.jp

分科会設立申請書

下記の内容の研究分科会の設立を申請します。

申請日：
 申請者：
 名称：研究内容が推測できる研究分科会の名前
 共同申請者：添付するExcelファイルに5名以上のJSD会員名を記載
 趣旨：研究分科会を立ち上げる背景と狙い、参加メンバー利得、期待できる成果、等について具体的に記載
 研究内容：研究対象、研究構成、研究内容、研究計画、等について具体的に記載
 研究体制：研究組織、研究実施方法、打ち合わせ頻度・形式、作業分担方法、等についてできるだけ具体的に記載

メンバーリストのExcelファイルには、代表世話人を含めて下記情報を記載。

名前、e-mailアドレス、所属機関名

編集委員会細則

- 第1条 (目的)
当日本支部規約第2条に定める事業を行うために、編集委員会を設ける。
編集委員会は、当日本支部で発行する学会誌の発行に関する諸事項の決定およびそれらの処理事項を実施する。
- 第2条 (委員会の構成)
編集委員会の構成は次の通りとする。
編集委員長 1名
編集副委員長 1名
編集委員 若干名
- 2 編集委員長と編集副委員長は当日本支部の会長が理事会メンバーの中から任命する。
- 3 編集委員は編集委員長が当日本支部の会員の中から委嘱する。
- 第3条 (委員の任期)
編集委員長、副委員長、委員の任期は2年間とする。
- 第4条 (委員会の業務)
委員長は編集委員会を招集し、次の事項を審議し処理する。
①学会誌の投稿規定の策定と論文募集
②学会誌研究論文の査読適格者の委嘱と投稿論文ごとの選任
③学会誌の編集に関わる業務
④学会誌の発行・送付に関わる業務
- 第5条 (委員会の報告)
委員長は編集委員会の審議内容、業務遂行内容を理事会に適宜報告する。
- 付則 2005年12月24日から発行する。

学会誌研究論文査読規定

1. 審査の目的
投稿された研究論文が当日本支部の学会誌に掲載するにふさわしいか否かを審査基準に基づき判断する。
2. 審査基準
投稿された研究論文は、以下の項目に照らして査読者が総合的に審査する。
分野 : システム・ダイナミクスに関連した内容であること。
論理性 : 論旨の展開が明快で、記述が簡潔・明瞭であること。
新規性 : 内容に新たな知見が盛り込まれていること。
信頼性 : 結論等を信頼するに値する客観的な考察が示されていること。
有用性 : 得られた結論・経過が学術領域あるいは実社会において有用であること。
3. 査読者
編集委員会が指名する2名の査読者が審査基準に基づき審査にあたる。査読期間は編集委員会から送付されて2ヶ月以内とする。査読適格者の氏名は公開するが、個々の投稿論文も対する査読者の氏名は公開しない。査読者と投稿者との直接の接触は許容されず、必ず編集委員会を介する。
4. 判定
査読者の審査結果に基づき研究論文は以下のいずれかに判定される。査読者の意見が割れた場合には編集委員長がこれを決する。
 - ①そのまま掲載
 - ②指摘事項を修正したことを編集委員長が確認して掲載
 - ③再度査読者の審査が必要
 - ④掲載不可

②と判定された研究論文の投稿者には掲載条件が指示される。投稿者が指示に従い修正したことを編集委員長が確認すれば掲載に分類される。投稿者に異論がある場合には、論拠を編集委員長に文書でもって提出し、編集委員会で審議の結果、提出文書が適切であると判断されたなら掲載に分類される。修正が十分でなく、また異論根拠が文書で提出されない場合には④掲載不可に分類される。

③と判定された研究論文は、修正後に査読者により出版までの時間が許容する範囲内で審査する。時間切れの場合には、④掲載不可に分類される。

参考資料

2014-2015 年度役員・事務局体制

副会長	研 究	田中伸英	学習院大学経済学部
理事 (総務担当)		福田 敦	日本大学理工学部
理事 (国際担当)		山口 薫	同志社大学大学院
理事 編 集 編集委員長		小山 茂	札幌大学
理事 編 集 編集委員		有村幹治	室蘭工業大学
理事 編 集 編集委員		海老根敦子	駿河台大学経済学部
理事 研 究		高橋 裕	専修大学商学部
理事 研 究		武田晋一	拓殖大学国際学部
理事 研 究		鈴木宏典	日本工業大学
理事 研 究		岩尾詠一郎	専修大学商学部
理事 事務局 会計		小早川 悟	日本大学理工学部
理事 事務局 会員管理		伊東英幸	日本大学理工学部
理事 事務局 HP		石坂哲宏	日本大学理工学部
監事		町田欣弥	駿河台大学経済学部
監事		渡部淳一	法務省
事務局			

